

# 吉野川市山川町の民間薬調査

民間薬調査班 (徳島生薬学会)

川添 和義 <sup>*1, 2</sup>	伏谷 秀治 <sup>*2</sup>	洲山 佳寛 <sup>*3</sup>	高岸 佐和 <sup>*3</sup>	中野扶佐子 <sup>*3</sup>	石井 康世 <sup>*4</sup>
巻幡 美幸 <sup>*4</sup>	萬谷 朋子 <sup>*4</sup>	市川 沙季 <sup>*4</sup>	田島壮一郎 <sup>*2</sup>	中川 博之 <sup>*2</sup>	小中 健 <sup>*2</sup>
石田 俊介 <sup>*2</sup>	三上 拓也 <sup>*5</sup>	今林 潔 <sup>*6</sup>	今林 優佳 <sup>*6</sup>	柏田 良樹 <sup>*7</sup>	高石 喜久 <sup>*7</sup>
水口 和生 <sup>*1, 2</sup>					

**要旨：**徳島県の各地域に伝承される民間薬の調査研究の一環として、吉野川市山川町（旧麻植郡山川町）における民間薬調査を行った。アンケート形式でサンプル調査を行った結果、701件、136品目の民間薬について回答があった。そのうち利用目的がわかっているものは549件、124品目であり、調査した民間薬の2割以上は情報として残っていなかった。回答の多かった民間薬としてはドクダミ、アロエ、ヨモギ、センブリなどであり、これらは阿波市阿波町や美馬市美馬町で調査した結果と類似し、つるぎ町一字の調査結果とはかなり異なっていた。また、イシャイラズと呼ばれる民間薬について調査したところ、ゲンノショウコが多かったもののその半数は用途がわからないと回答したものであった。以上のことから、山川町においても民間薬伝承は途切れつつあることが判明した。

**キーワード：**民間薬、山川町、イシャイラズ、アンケート調査

## 1. はじめに

医薬品文化は、「親から聞いたことのある薬草」という形で各地域に継承されてきた。民間薬と呼ばれるこれら医薬品には、科学的根拠の乏しいものもあるが、一方ではこれまで全く見過ごされてきた貴重な医薬品の「種」が隠れている可能性がある。キハダからベルベリンが単離され、今でも胃腸薬として利用されているのも一つの例である。このように、医薬文化は貴重な情報を含んでいる文化であり、また、継承していくべき文化である。しかし、民間医療の必要性がなくなってきた現在の現在、医薬文化の継承はまさに危機状態に陥っていると言っても過言ではない。

徳島生薬学会民間薬調査班では徳島県における民間医療に関する情報継承の状況を把握し、それをできる限り文書化して伝承することを目的として調査を行っている。今回は吉野川市山川町における調査

を行った。吉野川市は平成16年10月1日に当時の麻植郡3町1村（鴨島町、川島町、山川町、美郷村）が合併して設置され、平成22年現在、人口44,020人と徳島県下では徳島市、鳴門市、阿南市に次ぐ規模である<sup>1)</sup>。徳島県のほぼ中央に位置し、市名が示すとおり北側は吉野川に面し、県境はない。旧山川町は吉野川市山川町として地名を残し、この地区には10,794人、3,828世帯が暮らしている<sup>1)</sup>。今回は、山川町に居住する住民にアンケート形式で民間薬（薬草）の利用と認識について調査を行った。今回は限られた調査員と調査日数のため、全世帯ではなくランダムに抽出した家を訪ね調査を行った。本稿では、比較的人口が密集した地域で同様の調査を行った「阿波市阿波町における医薬品利用調査」（以下、阿波調査）<sup>2)</sup>、「美馬市美馬地区の民間薬調査」（以下、美馬調査）<sup>3)</sup>、と中山間地域の調査である「つるぎ町一字地区における民間薬調査」（以下、一字調査）<sup>4)</sup>とを比較しながら、山川町における民間薬利用につ

\*1 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部臨床薬理学分野 \*2 徳島大学病院薬剤部 \*3 徳島大学大学院薬科学教育部生薬学分野

\*4 徳島大学薬学部生薬学研究室 \*5 徳島大学薬学部臨床薬理学研究室 \*6 徳島大学薬学部薬用植物園 \*7 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生薬学分野

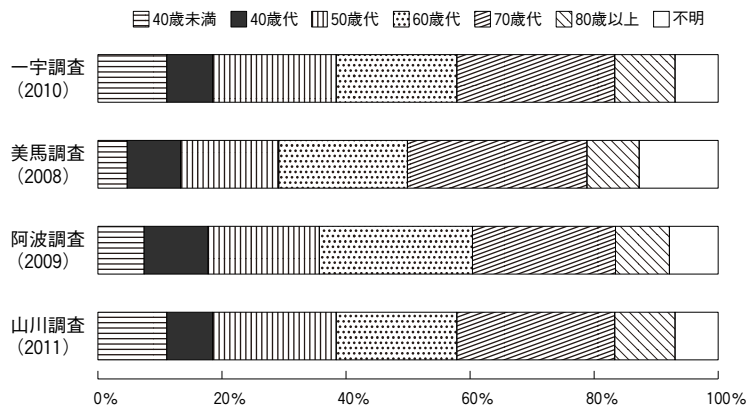


図1 回答者年齢構成比

いて考察する。

## 2. 調査方法

### 1) 調査期間

調査は基本的に2011年8月31日から3日間行った。さらに必要な情報収集についてはそれ以降も行った。

### 2) 調査形態・内容および同定

伝承医薬品の調査、同定については2007年に行った美馬市木屋平地区の民間薬調査<sup>5)</sup>(以下、木屋平調査)に準じた。

## 3. 調査結果および考察

### 1) 調査対象

調査対象は男性が回答したのが71戸(23.8%)、女性が回答111戸(44.9%)、複数名で回答24戸(18.4%)

不明10戸(13.0%)の合計216戸であった。これは当地区の全戸数(2010年調査時<sup>1)</sup>)の約5.6%に相当する。回答者の年齢構成と、年齢別の回答者数および情報収集件数はそれぞれ図1と表1に示すとおりである。

### 2) 情報の概要

得られた情報は全部で701件であり、これらを種類別に見ると、植物由来622件、動物由来37件、菌類4件、鉱物1件、加工品・その他5件、不明32件であった。1戸あたりの平均回答数は、50歳代以下で1~2.3件と低く、60歳代以上では4件を越し、特に50歳代を境にしてははっきりと回答数の違いが見られた。美馬調査でも若年層での回答率が低かったが、今回の調査では特に40歳未満の回答率が低く、これは情報数は異なるが一字調査と類似した傾向であることがわかった(図2)。

表1 性別・年齢別の情報収集件数(件)

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計	回答数(戸)	1戸あたりの平均回答数	用途不明	用途不明と回答した比率(%)
男性	4	13	27	29	89	28	5	195	71	2.7	40	20.5
女性	16	14	56	108	110	37	1	342	111	3.1	72	21.1
複数	3	0	17	40	27	24	23	134	24	5.6	32	23.9
不明	0	8	0	0	0	10	12	30	10	3.0	8	26.7
計	23	35	100	177	226	99	41	701				
全回答件数に対する割合(%)	3.3	5.0	14.3	25.2	32.2	14.1	5.8	-				
回答数(戸)	24	16	43	42	55	21	15	216				
1戸あたりの平均回答数	1.0	2.2	2.3	4.2	4.1	4.7	2.7	3.2				
用途不明	4	3	18	33	61	27	6	152				
用途不明と回答した比率(%)	17.4	8.6	18.0	18.6	27.0	27.3	14.6	21.7				

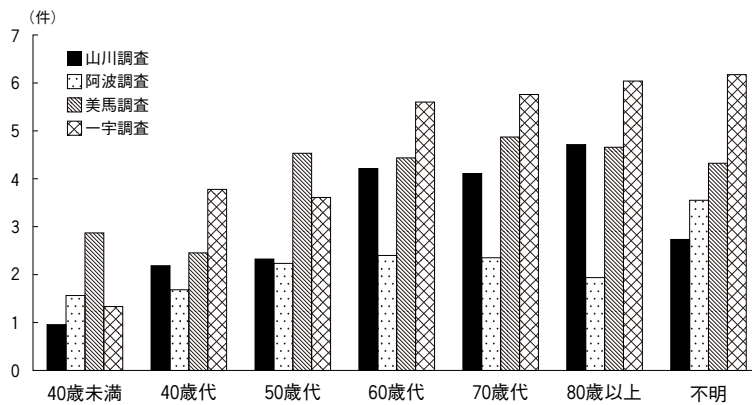


図2 一戸あたりの情報数

調査で得られた情報のうち、利用目的がわかっている有効な情報は549件であった。一方、用途不明と回答したのは21.7%で、美馬調査の25.1%や阿波調査の32.8%と比べて少なかった。

民間薬は全体で136品目確認されたが、そのうち利用法がわかっている有効なものは124品目(91.1%)であった。さらに有効な回答として3回以上出現したものは全確認数の25.0%にあたる34品目であった(表2)。有効な情報数の多いものから並べて情報数が全体の50%を超過するまでの品目数を比較すると、阿波調査や美馬調査では上位4品目、一字調査では8品目であったが、今回の調査では6品目であった。出現する民間薬の種類を比べると、1、2位

をドクダミ、アロエが占めている点は4つの調査に共通するが、3、4位にヨモギとセンブリが出現する点で、山川調査は阿波調査や美馬調査と類似した結果であると言える(表3)。

3) 利用目的・方法について

民間薬の利用目的を図3に示した(割合はのべ件数)。他の調査と同様、最も多いのが健胃整腸、下痢止めなどを目標とした消化器疾患(123件、35品目)で、ついで強壮・健康維持(93件、37品目)であった。これは、回答に「胃に効く」「元気になる」というのが多く、民間薬を健康維持に利用していることが多いことを反映していると考えられる。上位2者と止血、虫さされ、火傷で全体の半分以上を占

表2 品目別全情報件数と用途不明件数

a. 情報件数が10件以上(件)

	全情報	用途不明	用途不明率(%)		全情報	用途不明	用途不明率(%)
ドクダミ	131	28	21.4	ニホンマムシ	28	1	3.6
アロエ	65	1	1.5	ユキノシタ	26	7	26.9
ヨモギ	58	10	17.2	オオバコ	24	13	54.2
ゲンノショウコ	37	20	54.1	ビワ	19	9	47.4
センブリ	30	2	6.7	ハウセンカ	11	1	9.1

b. 情報件数が3~9件

9~7件 (4品目)

アマチャヅル, カキノキ, ダイコンソウ, ウメ

6~4件 (10品目)

イタドリ, オトギリソウ, マタタビ, ウコン, カキドオシ, イワタバコ, クコ, タラノキ, トチバニンジン, マグワ

3件 (10品目) [\*有効回答が2件以下 3品目]

ウラジロガシ\*, エビスグサ, カリン, サルノコシカケ, スギナ\*, ダイコン\*, ニガウリ, フキ, モモ, ヤーコン

表3 調査地別有効情報数

山川調査	情報件数	累計(%)	阿波調査	情報件数	累計(%)	美馬調査	情報件数	累計(%)	一字調査	情報件数	累計(%)
ドクダミ	103	18.8	ドクダミ	222	19.7	アロエ	307	19.4	アロエ	140	11.1
アロエ	64	30.4	アロエ	165	34.3	ドクダミ	230	34.0	ドクダミ	94	20.4
ヨモギ	48	39.2	センブリ	99	43.1	ヨモギ	170	44.7	ニホンمامシ	60	28.4
センブリ	28	44.3	ヨモギ	90	51.1	センブリ	109	51.6	ヨモギ	46	35.6
ニホンمامシ	27	49.2	ゲンノショウコ	56	56.1	ゲンノショウコ	68	55.9	ゲンノショウコ	36	41.3
ユキノシタ	19	52.6	オオバコ	25	58.3	ユキノシタ	47	58.9	センブリ	36	45.0
ゲンノショウコ	17	55.7	ニガウリ	22	60.2	ニホンمامシ	41	61.5	キハダ	30	47.5
オオバコ	11	57.7	ニホンمامシ	21	62.1	オオバコ	36	63.8	マタタビ	27	50.0
ビワ	10	59.6	ビワ	20	63.9	ビワ	35	66.0	オオバコ	26	52.2
ハウセンカ	10	61.4	ユキノシタ	20	65.7	カキノキ	20	67.2	ユキノシタ	17	54.4
総数	549		総数	1,127		総数	1,581		総数	786	

めていた。阿波調査や美馬調査ではかぜ症候群に利用されるものが比較的多かったが、今回の調査ではあまり多くは見られなかった。また、高血圧（11件）や糖尿病（6件）、肝臓疾患（5件）など、西洋医学的な観点からの民間薬利用も少なからず見られ、古くからの伝承以外の民間薬利用も多いことが推測された。

消化器疾患に利用される民間薬としてはセンブリ（27件）が最も多く、ついでドクダミ（23件）、アロエ（17件）ゲンノショウコ（12件）の順であった。この4種類が上位を占めるのは阿波調査、美馬調査、一字調査と変わりがないが、一字調査では上位に含まれていたキハダの出現頻度は少なかった。

強壮・健康維持に利用されるものはニホンمامシ（19件）、ドクダミ（19件）、マタタビ（5件）の3品目で半数近くを占めていた。これらの利用方法としては、ニホンمامシはその63%が薬酒として、ドクダミはほぼ全部が健康茶として利用されていた。

全体的な利用方法としては「煎じる」が40%で、それ以外には酒漬け、生利用などが多かった。酒漬けは35%がニホンمامシで、他にはハウセンカ（白花を虫さされに）、マタタビ（果実を滋養強壮に）などが酒漬けとして利用されていた。特徴のある利用方法は少なかったが、ヨモギを焼いて煙で虫除けにするという回答が3件見られた。また、動物に対する薬として牛に梅酢を飲ませると元気になるという回答もあった。ニホンمامシ以外に動物を利用したのものとしてアマガエルを胃薬として丸呑みするというのが2件あった。また、イセエビの殻やキジの

脚を麻疹に利用する、ミミズを疳の虫に使うなどが見られた。

今回の調査で確認された薬材について、地方名、利用部位、利用目的、利用方法を表5にまとめた。なお、表5において情報数の極端に少ない民間薬または使用目的についてはアスタリスク（\*）を付した。また、使用部位は主なものを記載した。

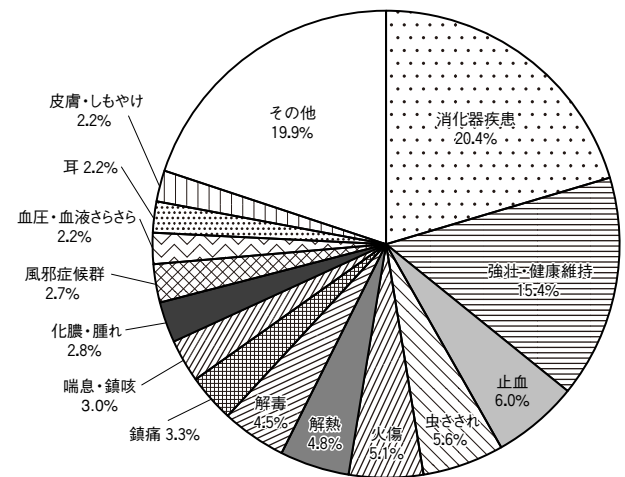


図3 疾患別利用の割合

#### 4) 「イシャイラズ」調査

地域によって呼び方は異なるが、その民間薬でほとんどが事足りるほど良く効くものを「イシャイラズ」や「イシャダオシ」と呼ぶことがある。今回の調査地域においてもそのように呼ばれる民間薬があるかを調べた。各年代別に、「イシャイラズ」と呼ぶと答えた数（A欄）とそのうち用途について「知らない」もしくは無回答の数（B欄、内数）を出現頻度の多い品目順に列記した（表4）。全部で98件

表4 年齢別に見た「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材（件）

	40歳未満		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳以上		不明		計	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
ゲンノショウコ	0	-	1	0	1	1	8	3	12	7	4	2	2	1	28	14
アロエ	1	0	1	0	7	0	5	1	1	0	0	-	0	-	15	1
ドクダミ	0	-	1	0	2	0	2	0	3	3	1	1	1	0	10	4
ダイコンソウ	0	-	0	-	1	1	0	-	1	0	1	1	0	-	3	2
ユキノシタ	0	-	0	-	1	1	1	1	0	-	0	-	1	0	3	2
アマチャヅル	0	-	0	-	1	0	1	1	0	-	0	-	0	-	2	1
カキドオシ	0	-	0	-	1	0	0	-	1	0	0	-	0	-	2	0
センブリ	0	-	0	-	1	0	0	-	1	1	0	-	0	-	2	1
ビワ	0	-	0	-	1	0	0	-	1	1	0	-	0	-	2	1
リンゴ	0	-	1	1	1	1	0	-	0	-	0	-	0	-	2	2
その他	0	-	0	-	0	-	3	0	1	0	0	-	1	0	5	0
不明	0	-	0	-	3	0	5	3	8	6	7	3	1	1	24	13
計	1	0	4	1	20	4	25	9	29	18	13	7	6	2	98	41
有効回答数	1		3		16		16		11		6		4		57	
全体の回答数に対する比率 (%)	5.3		9.4		19.5		11.1		6.7		8.3		11.4		5.4	

A欄 総情報数, B欄 不明または無回答の情報数

の回答があったが、そのうち約4割は用途不明（無回答も含む）であった。ゲンノショウコが最も多く、特に60歳代以上で多くあげられているが、そのうち約半分は用途不明または無回答であった。一方、アロエについてはこれを「イシャイラズ」としてあげた人がゲンノショウコの半数程度であるにもかかわらず、ほとんどの人が用途を認識して回答している。これは、ゲンノショウコが古くから「イシャイラズ」として伝わってはいるものの最近の利用実績がなく、結果的に利用法を知らずに呼び名だけが継承されている可能性が考えられる。このことは、70歳代ではゲンノショウコという回答が最も多かったにもかかわらず半数以上の人がその利用法を知らなかったことから推測される。一方、アロエはゲンノショウコほど古くからではなく、比較的最近になって近隣地域や書籍などからその利用法が導入された可能性が考えられる。このことはアロエと回答した年齢層が比較的低い（50代が最も多い）ことや70歳代以上ではほとんどの人がアロエを「イシャイラズ」と認識していないことから推定される。興味あることに、三好市東祖谷地区ではゲンノショウコを、美馬市美馬町ではアロエをそれぞれ「イシャイラズ」

と呼ぶ事例の多いことがわかっている。今回の調査から、山川町では、ゲンノショウコとアロエは有効回答数からするとほぼ同じであり、ちょうど地理的な位置関係と同様に、「イシャイラズ」の面からも東祖谷と美馬町の間にあるともいえる。なお、イシャイラズとしてリンゴをあげた回答があったが、その利用法については回答が得られなかった。

#### 5) 薬材の名称

民間薬調査では薬剤の呼び方を聞いたままに記録しているため、多くは方言で回答されることが多い。しかし、今回の調査では方言での回答が少なかった。この傾向は阿波調査や美馬調査と類似している。わずかにドクダミ（ジュウヤク）やニホンマムシ（ハブ、ハメ）などが見られるに過ぎなかった。ゲンノショウコは県西では「ミコシグサ」と呼ばれることが多いが、今回の調査ではこの回答はなかった。また、センブリは「センブリ」と発音されることも多いが、それもわずかに確認できるのみであった。

#### 4. 総括

今回の調査は戸数の比較的多い地域であることから抽出調査となった。これまでの調査よりアンケー

トの回答数がやや少なかったが、民間薬伝承の傾向は阿波町や美馬町に類似していて、一字地区とは異なっていることが判明した。これは、民間薬の種類の違いが大きいこと、すなわち限られたものしか民間薬として伝承されていないということや、方言での伝承が少ないこと、すなわち古くからの伝承（口伝）が廃れつつあることから明らかである。たとえば、徳島県西部でゲンノショウコを「ミコシグサ」と呼ぶことが多いが、この地域ではほとんど聞かれないことから伝承の途絶が顕著であることを示唆している。また、今回の調査で特徴的であったのは、「イシャイラズ」という言葉は聞いたことがあるがそのものは知らない、または用途を知らないという回答が目立ったことである。これは、まさに伝承が途切れつつある現場であり、親や祖父母の世代は知られていたであろう情報が現在の世代で必要なくなっていることを示す証拠の一つと考えられる。当然、その次の世代には受け継がれることはほとんどないと考えられ、近い将来には「イシャイラズ」という言葉さえも伝えられなくなる可能性もある。それらに取って代わってリングやヤーコンといった新しい情報媒体からもたらされたものが民間薬として認識されつつある。これは、徳島県下のいずれの地域にも共通したことであるが、特に都市部近郊で著しいことが、ここ数年の調査で明らかになってきた。限界集落の増加など継承の担い手が少なくなってきたことが伝承断絶の大きな要因の一つであるのは間違いない。しかし、今回の調査地である山川町のように比較的若年層、つまり情報の担い手のいる地域においても、特に必要性のない情報となってしまった民間薬に関する伝承は簡単に途切れてしまうことを今回の調査結果は示している。

## 5. おわりに

現在は吉野川市となり市街地化しているが、山川

町は南部に広い山間部をいただいていることから、民間薬は比較的多く残っていると我々は考えていた。しかし、抽出調査でサンプル数が少なかったとはいえ、情報の伝承状況は美馬市美馬町や阿波市阿波町の調査とあまり異なることなく、やはり市街化や高齢化の影響が強く認められた。ただ、「イシャイラズ」調査において、高齢者で情報伝承の痕跡があることから、かつては民間薬伝承が確実にあったことを感じさせられる。近隣には穴吹、脇町と大きな市街地があることから、地理的な因子も関係して、民間伝承薬情報の必要性が急速に乏しくなったことが伝承衰退の一つの要因と考えられる。その一方で、他の地域と同様に、リングなどの新しい「伝承薬」が出現し、引き継がれている状況も確認された。今後、日常で利用できるこのような民間薬がインターネットや書籍の普及にとともに増えているものと思われる。ただ、古くからの民間薬が長年の「治験」を経てきたものであるのに対し、これらの新しい「民間薬」は効果の実績が乏しく、ブームで消失してしまう可能性も高い。このような意味でも本来の伝承薬の情報が消失してしまうことは大変残念なことと思われる。今後も徳島県各地においてわずかに残る伝承民間薬情報を確実に残していくのが、現在を生きる私たちの責務ではないかと思う。

## 文献

- 1) 平成22年国勢調査，総務省統計局。
- 2) 徳島生薬学会（2009）：阿波市阿波町における医薬品利用調査，阿波学会紀要，56，83-94。
- 3) 徳島生薬学会（2008）：美馬市美馬地区の民間薬調査，阿波学会紀要，55，79-89。
- 4) 徳島生薬学会（2010）：つるぎ町一字の民間薬調査，阿波学会紀要，57，89-98。
- 5) 徳島生薬学会（2007）：美馬市木屋平地区の民間薬調査，阿波学会紀要，54，101-111。

The folk medicine of Yamakawa Cho in Yoshinogawa City, Tokushima Prefecture.

KAWAZOE Kazuyoshi, FUSHITANI Shuji, SUYAMA Yoshihiro, TAKAGISHI Sawa, NAKANO Fusako, ISHII Yasuyo, MAKIHATA Miyuki, MANTANI Tomoko, ICHIKAWA Saki, TAJIMA Soichiro, NAKAGAWA Hiroyuki, KONAKA Ken, ISHIDA Shunsuke, MIKAMI Takuya, IMABAYASHI Kiyoshi, IMABAYASHI Yuka, KASHIWADA Yoshiki, TAKAISHI Yoshihisa, MINAKUCHI Kazuo,

Proceedings of Awagakkai, No. 58 (2012), pp. 85-94.

表 5

植物			
		ウラルカンゾウ*	〔根・根茎〕 甘味, 鎮痛, 免疫抑制 煎じる
アイ*	虫刺され		
アオジソ*	〔葉〕 精神安定, 滋養強壯 煎じる	ウンシュウミカン* ミカン	〔果実〕 健康増進 浴用
アカジソ*	〔葉〕 疲労回復, 滋養強壯 煎じる	エビスグサ ハブチャ	〔種子〕 糖尿病*, 利尿*, 血の道*, 胃腸病* 煎じる
アケビ*	健康維持 食用	オウレン*	〔葉〕 胃 煎じる
アサガオ*	〔花〕 虫刺され 生利用	オオバコ	〔全草, 根〕 咳止め, 胃腸薬, 利尿, できもの 煎じる, フキなどの葉に包んで蒸し焼きにし外用
アシタバ*	〔葉〕 疲労回復 食用	オケラ*	〔根・根茎〕 健胃, 利尿
アマチャヅル	〔全草〕 健康にいい, 高血圧*, 健胃*, 下痢* 煎じる	オタネニンジン*	〔根・根茎〕 滋養強壯 粉末を水に溶かしてのむ
アロエ	〔葉〕 健胃・整腸, 虫刺され, 火傷, 外傷 葉肉をはる, 葉の汁を飲む	オトギリソウ	〔全草〕 虫さされ, 膝痛*, 下剤* 酒漬, 煎じる, 油漬
イカリソウ*	〔全草〕 強壯, 疲労回復	カキドオシ	〔全草〕 疲労回復*, 糖尿*, 胃腸薬* (あるいはドクダミと) 煎じる
イタドリ イタンポ	〔根・根茎〕 解熱, 止血*, 便秘* 煎じる	カキノキ カキノハ, カキノハチャ	〔葉, 果実〕 高血圧, 利尿* 煎じる, 茶料
イヨフウロ ツルギフウロ	健康維持 煎じる	カリン	〔果実〕 咳止め 酒漬
イワタバコ イワジシシャ	〔葉〕 解熱*, 胃薬*	カワラケツメイ*	〔全草〕 利尿 陰干しし刻んで煎じる
ウコン	〔根・根茎〕 健康のため, 胃腸*, 心臓病* 煎じる, 干して粉にして飲む	カワラナデシコ*	〔種子〕 消炎, 利尿 煎じる
ウツギ* オツゲ	〔樹皮〕 胃腸薬 生の樹皮を噛む	カワラヨモギ*	胆石, 黄疸 生利用
ウド*	〔葉, 茎〕 血糖 食用, 煎じる	キササゲ*	肝臓または腎臓病 煎じる
ウメ ウメ	〔果実〕 腹痛, 食あたり, 滋養強壯*, 血流改善*, 夏バテ解消* 酒漬, 生で食べる, 煎じる	キハダ*	〔樹皮〕 胃薬 干して煎じる
ウラジロガン* シロカシ	〔葉〕 胆石 煎じる	キランソウ*	〔全草〕 胃薬, 肝臓によい 煎じる

\* 極端に情報数の少ない民間薬または利用目的

表5 (続き1)

キリ*	〔花〕 めまい 酒漬	セリ*	〔葉〕 解熱 煎じる
キンカン*	〔果実〕 咳止め 水で煮たものを食べる	センナ*	〔葉〕 便秘 煎じる
クコ	〔果実〕 滋養強壯 酒漬, 煎じる, 茶料	センニンソウ*	〔葉〕 喘息 生の葉を揉んで貼る
クス*	〔根・根茎, 花〕 風邪, 癌治療 煎じる	センブリ センブリ	〔全草〕 腹痛, 健胃, 胆嚢炎* 振り出す, 煎じる
ゲンノショウコ ゲンノウショウコ, イシャダオシ	〔全草〕 胃腸薬, 便秘, 解熱* 干して煎じる, 茶料	ダイコン*	〔根・根茎〕 胸焼け, 咳止め 生で食べる (蜂蜜をつける)
コガネバナ*	〔根・根茎〕 消炎, 利尿, 解毒, 腹痛 煎じる	ダイコンソウ	〔全草, 葉〕 解熱, 胃腸薬*, 足の痛み* 煎じる
ゴシュユ*	〔果実〕 腹痛 煎じる	タラノキ タラノメ, タラメ, タロメ	〔茎, 葉, 根・根茎〕 糖尿病, 高血圧*, 鼻炎* 煎じる, 粉末にして飲む
サクラ*	〔樹皮〕 解熱 煎じる	チドメグサ*	〔葉〕 止血 生利用
サフラン*	〔花〕 解熱, 止痢 煎じる	チャノキ* バンチャ	〔葉〕 うがい 煎じる
サルナシ*	滋養強壯 食用	チョロギ*	〔根・根茎〕 脳の活性化 食用
サンショウ* サンショ	〔果実〕 風邪, 整腸 酒漬, 煎じる	ツクシ*	〔全草〕 気管支炎 食用
ジャノヒゲ* リュウノヒゲ	〔根・根茎〕 頭痛 根の瘤を使う	ツツラフジ* オオツツラフジ	〔茎〕 煎じる
シュンラン*	〔花〕 健康増進 食用	ツリガネニンジン*	〔根・根茎〕 咳止め, 去痰 煎じる
ショウガ*	〔根・根茎〕 風邪	ツワブキ*	〔葉〕 鎮痛, 吹き出物 光沢のある面を火で炙って皮膚に貼る
スギ* スギヤニ	〔葉, 樹脂〕 あせも, できもの ヤニを外用, 煎じる	トウゴマ* ヒマシユ	〔果実油〕 膝の痛み 擦って使う
スギナ*	〔全草〕 利尿 煎じる	トウモロコシ*	糖尿病
セイロンベンケイソウ* テングソウ	喘息 生利用	ドクダミ ジュウヤク, イシャダオシ	〔全草〕 できもの, 吸出し, 虫刺され, 熱冷まし, 整腸, 万能薬, 血圧, 血糖 葉をもんで使う, 葉などで巻いて焼く, 干して使う, 番茶と混ぜる,
セッコク*	血圧降下, 解毒, 解熱 煎じる		



表5 (続き2)

	浴用		煎じる, 生葉を揉む
トチバニンジン チクセツニンジン	〔根・根茎〕 疲労回復, 滋養強壯 酒漬 (マタタビとナツメとクコと 一緒に)	ヘラオモダカ*	〔根・根茎〕 利尿, 下痢 もみ洗いし, 表皮がなくなったもの を干して煎じる
トチュウ* トチュウチャ	〔葉〕 血圧 茶料	ハウセンカ	〔花, 果実〕 虫刺され, 止痒, 水虫*, 麻疹* 花 (白) は酒に漬けて塗る, また は飲む, 実をつぶして塗る
ナス*	〔ヘタ〕 歯肉炎, アトピー 黒焼	ホオズキ*	〔果実, 全草〕 咳止め, 解熱, 痛風, めまい 塩漬けにしたものを2個ぐらい食 べる, 煎じる
ナタマメ*	痔 煎じる	マグワ クワノハ	〔葉〕 血糖, 肥満*, 皮膚疾患* 煎じる (ノブドウの蔓と一緒に), 茶料
ナツメ*	〔果実〕 滋養強壯 酒漬, 食用	マタタビ	〔果実〕 滋養強壯, 心臓病* 酒 (焼酎) 漬
ナンテン*	〔果実〕 咳止め 煎じる	マツ* マツバ	〔葉〕 滋養強壯 煎じる
ニガウリ ゴーヤ	〔果実〕 血糖*, 肝疾患*, 健康維持* 生利用, 煎じる	ミシマサイコ*	〔根・根茎〕 解熱, 解毒, 消炎 水洗いし, 日干しして煎じる
ニンニク*	〔根茎〕 滋養強壯 食用	モモ	〔葉〕 あせも 生利用, 煎じる
ネギ*	〔葉〕 風邪や喉の痛み 生を揉んでノドにくくる	ヤーコン	〔根・根茎, 葉〕 疲労回復, 血圧, 解毒 煎じる, 食用
ネムノキ*	強壯, 鎮痛, 鎮咳, 駆虫剤 煎じる	ヤマブドウ*	〔茎〕 鼻炎 煎じる
ノブドウ*	〔樹皮, 果実〕 肝硬変, 花粉症 煎じる	ユキノシタ	〔葉〕 耳から膿が出る (ミミゴ), 中耳炎, 解熱 生葉を塩で揉んで出てくる汁を飲 む, または患部につける (耳に入 れる)
ハス*	〔根・根茎〕 喘息 煎じる	ユズ	〔種子〕 骨強化 干して炒って粉にして飲む
ハトムギ*	〔果実〕 胃薬 煎じる	ヨモギ	〔全草〕 止血, 切り傷, 消炎, 虫除け 塩などで揉んで汁をつける, 浴用, 燻す (虫除け)
ハマボウフウ*	〔根・根茎, 若芽〕 中風, 風邪, 脳溢血 煎じる		
ヒガンバナ*	〔根・根茎〕 熱を取る 生利用		
ビワ ビワノハ	〔葉, 種子〕 皮膚疾患, 癌予防, 咳止め*, 熱冷ま し* 干して煎じる, 浴用, 酒漬		
フキ	〔根・根茎, 葉〕 風邪*, 止血*, 健胃*		

表5 (続き3)

動物		菌類	
アマガエル*	胃薬, 十二指腸潰瘍 そのまま飲み込む	サルノコシカケ	癌, 胃腸* 煎じる
イセエビ*	〔殻〕 はしか 煎じる	マツホド* マツノネノイモ	癌 焼いて食べる
カタツムリ*	疳の虫 黒焼		
キジ*	〔脚〕 はしか 蹠(くるぶし)から先の部分を煎じる		
クマ* クマノイ	〔胆嚢〕 解熱		
ニホンマムシ マムシ, ハブ, ハメ	〔身, 皮〕 疲労回復, 滋養強壮, 解熱, 膿の吸出し, あせも*, 烏(メジロ)の元気回復* 皮と内臓を除いた身を干して粉にする, 身を炙って粉にする, 皮は乾燥しておく(腫れ物)		
ヘビ* タテジマノヘビ	疲労回復, 強壮 肉を食う		
ミミズ*	疳の虫 黒焼		
ムカデ*	火傷による水疱 生きたのを食用油に漬け, その油を使う		
		鉱物	
		ジュウソウ* (重曹)	鼻血 そのまま使う
		加工品	
		サトウミズ (砂糖水)	傷の腫れ 濃くして使う
		その他	
		タマゴ* (鶏卵)	〔黄身〕 痔 熱してコールタール状にする